

☆防災情報 知っておきましょう(1)～救護連絡所 (せんげん支隊 窪田)

大震災が発生した時、小川自治会の避難場所となるのは小川小学校と小川高校です。小川高校を避難場所とするのは5つの公園支隊のうち、かえで支隊であり、他の4支隊は小川小学校を避難場所とすることになっています。

小川小学校は、避難場所であるだけでなく、災害時、病人・負傷者の応急処置を施す救護連絡所にも指定されています。市の防災安全課によると大地震発生後、3日を目途に小川小学校の保健室に開設されることになっています。発災直後から地域の町田市医師会所属の医院・診療所等は閉鎖され、医師・看護師等は災害拠点連携病院(地域の中心的な医療機関)である町田慶泉病院に集中配置されることとなります。

発災後3日までは負傷者・病人は慶泉病院に駆け込んでください。そこでトリアージ(注)を受け、応急処置か、それ以上の処置となるかが決まります。4日目以降からは小川小学校の救護連絡所で診察・治療を受けることが可能です。

救護連絡所には医師・薬剤師・看護師が配置されますが常駐ではありません。ほぼ日中は常駐しますが、夜間は不在となる可能性が高いとのことです。また配置される医師等の数は市内の被害状況にもよりますがそれぞれ1～2名の配置となるとのことです。(町田市市民防災安全課によると小川小学校には医療キットは1セットしか備えてないとのことです。)

注：トリアージとは

地震などの災害時には、短時間に多数の人がケガや病気になり、医療機関での診療・治療を必要とするようになります。しかし、医療機関の機能(医療スタッフ・器材・医薬品など)にも限りがあり、災害時の制約された条件下で1人でも多くの傷病者に対して最善の治療を行うためには、病気やケガの緊急度や重症度によって治療の優先順位を決めることが必要になります。トリアージとは「病気やケガの緊急度や重症度を判定して治療や後方搬送の優先順位を決める」ことを言います。阪神淡路大震災の時は軽傷者も含め多くの人が病院・医院に殺到し大混乱が起きました、70%が軽傷でした。優先順位をつけるトリアージは重要です。

□かえで支隊で防災訓練を行いました(かえで支隊 甲斐)

7月26日(土)気温35度を超える炎天下でしたが、隊員26名が参加して、町田消防署南出張所のご指導のもと、防災訓練を行いました。

かえで公園で消火器の取り扱い・放水訓練を、スタンドパイプは公園近くに消火栓がないため小川高校横の消火栓を利用して路上で訓練を行いました。ブルーシートを使用した仮設テントや、防火資機材・非常食などの展示も行いました。併せて安全確認の旗出し訓練も行い52%の方が参加されました。放水の一連の操作などが体験でき有意義な訓練となりました。

訓練計画の策定、関係役所への申請書類作成・提出、必要機資材・資料の準備、当日早朝からの準備や後かたづけなど、分担して活動いただいた皆さまご苦勞様でした。

また当日早朝からのハンドマイクの呼びかけに応じ参加いただいた方々、有難うございました。次回は10月4日の自治会全体の総合訓練です、防災は家族と自分のためです。ぜひ参加下さい。

□せんげん支隊のスタンドパイプ防災訓練は7月19日(土)20人強の方が集まりましたが、指導の町田消防署がせんげん公園まで来ながら、火災発生で急遽現場へ駆けつけたため、やむなく中止となりました。次回の予定は9月27日(土)午前です。(せんげん支隊 窪田)

□防災機材を整備しました(防災隊本部事務局)

- ・スタンドパイプを1台追加し、2台となりました。せんげんと蜂谷戸に配備しましたが残りの3支隊にも順次配備します。
- ・防災倉庫内にあった消火器(支隊各2台)を、いつでも使用できるよう、外部取り付け用の格納箱を購入し、倉庫近くに取り付けました。
- ・緊急連絡用のトランシーバーを4台購入しました。各種交信テストと実務的な訓練を行い、各支隊、青パト、本部で全体13台まで増やしていく予定です。
- ・夜間照明用ランタンを各支隊用に購入しました。